



## 今一度、三段峡

医療法人社団やまを会 落合整形外科内科 落合 洋  
(山県郡医師会会報 2020年1月 第18号より転載)

三段峡という景勝地を御存知ですか、もちろん山県郡の方なら何をいまさらと云われると思います。しかし意外と知られていないし、地元の人でも訪れてない方が多い。

三段峡は大正6年写真技師の熊勝一により峡谷として足を踏み入れたのが最初であったと思われる。

その後数々の努力により大正14年10月、史跡名勝天然記念物・保存法第1条により、内務省の告示によって、三段峡は国の名勝に指定された。

現在三段峡は全国でもわずか6地域しか認定されていない『国の特別名勝(峡谷・渓谷の部)』の内の一つであり、中国・四国・九州地方では唯一である。

三段峡正面口より、全長16 kmの長い渓谷であり、随所に感動をもたらす風景が広がり、5大景観と呼ばれるポイント等があります。

第1ポイントは『長淵』です。三段峡の南入口、長淵橋を渡って渓谷の中に入ってゆくと、右下に見えるのが長さ100 mの静かな淵で、峡内では一番長い。流れを感じさせない透き通った清流は時の流れも忘れさせてくれる。

第2ポイントは『黒淵』です。黒淵を正面口より散策すると、船を呼ぶためにロープを引っ張ります。そうすると『黒淵荘』に隣接する河岸の船が迎えに来てくれます。船では中国の『桂林』のような100 mに及ぶ切り立った絶壁と美しい水面を味わえます。

第3ポイントは『猿飛』である。三段峡の奔流となる柴木川を上流にさかのぼると、八幡川となって横川川と合流する。葎が原から入峡すると左が横川川峡谷、右が八幡川峡谷となる。横川川峡谷を上流に30分ほど歩くと5大景観の1つ猿飛に出会う。

20メートル余りの削り立つ岸壁が両側からせり合って対立し、もっとも狭い部分は2メートルしかない。ここを猿が小石のように飛んでいた風景から、猿飛の名が生まれた。

下には澄み渡った深淵がよどみ、うす暗い岸壁の様相は奇観を帯びている。岩壁がやがて広がるにつれ、明るい視界が開けると、ごうごうと深い谷間にひびく水音とともに、美しい姿を見せて飛沫する二段滝の世界がある。

第4ポイントは先の『二段滝』である。滝の轟音が伝わってくると、間もなく二段になった美しい姿の二段滝が見えてくる。猿飛の奇観と、二段滝の美観は、自然の地形と自然の摂理によるものだが、人間の力ではおよぶことのできない大自然の創造である。

広い滝つぼの対岸に船が着く。傾斜面に広がる岩の上に腰をおろせば、美しい線を描いて流れ落ちる幅広い二段の滝が、深潭の上で白い飛沫をあげ、滝のひびきは深山幽谷の地に雄大に広がる。

最後は第5ポイントの『三段滝』である。八幡川峡谷の小さな尾根を越して上流に進むと、やがて三段峡を代表する三段滝に到達する。切り立った懸崖で取り囲まれた深く広い淵の上には、三段の断層になった空間斜面がある。その谷間から滝は姿を現し、何条にも分かれて壮観に流れ落ちる。そして幅12 mの滝は400坪の大深淵にとうとうと落下してゆく。

以上が、三段峡の主な名所であるが、峡中には、大小百に近い景勝・奇勝が散在しており、延長16 kmの大峡谷でありますので、素晴らしい場所は数知れません。

散策コースもたくさん用意してあります、皆さんも今一度訪れて見られたらどうでしょうか。